

授業科目名	【Gカリキュラム】 刑法(総論)Ⅰ ※本年度は開講せず 【EFカリキュラム】 刑法総論Ⅰ	その他参照	開講年次	【G】2 【EF】2	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目 (-・-・-・-) / 【EF】教科及び教科の指導法に関する科目 (-・-・-・-)					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための (-・-・-・-) 科目 【EF】教員の免許状取得のための (-・-・-・-) 科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	犯罪論の前半部分	担当者	百合草 浩治			
授業概要	<p>【概要】</p> <p>犯罪の一般的成立要件について概説するとともに、重要な基本判例について講義する。</p> <p>なお、①予習・復習のやり方、②小テスト等の準備の仕方、③ノートの取り方等についての「授業への取り組み方」については、第1回目の講義において、詳しく説明するので、必ず出席すること。</p> <p>【到達目標】</p> <p>犯罪の一般的成立要件についての議論状況に関する基本的な知識を正確に理解するとともに、重要な基本判例について批判的に考察できるようになること。</p>					
履修条件	特になし。第1回目の講義には必ず出席すること。					
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>指定しない。</p> <p>【参考書】</p> <p>伊東研祐『刑法講義 総論』（日本評論社）、高橋則夫『刑法総論』（成文堂）、松原芳博『刑法総論』（日本評論社）、大塚裕史ほか『基本刑法Ⅰ』（日本評論社）、井田良ほか『ケーススタディ刑法』（日本評論社）、堀内捷三『刑法総論』（有斐閣）、橋本正博『刑法総論』（新世社）、伊藤渉ほか『刑法総論』（弘文堂）、今井猛嘉ほか『刑法総論』（有斐閣）、井田良『講義 刑法学総論』（有斐閣）【ただし、最新の版】</p> <p>また、講義で参照するものとして、成瀬幸典ほか（編）『判例プラクティス 刑法Ⅰ総論』（信山社）など。</p>					
授業回数	授業内容					
1	ガイダンス、イントロダクション。講義全体を通じて、何を学ぶのかについて説明する。犯罪論を学習することの意義。 予習：特になし 復習：授業内容の整理・確認。					
2	犯罪論体系および犯罪の一般的成立要件についての概説 予習：各自の参考書の該当ページ、配布プリント等の通読 復習：授業内容の整理・確認。					
3	因果関係論① 総説 予習：各自の参考書の該当ページ、配布プリント等の通読 復習：授業内容の整理・確認。					
4	因果関係論② 重要判例 予習：各自の参考書の該当ページ、配布プリント等の通読 復習：授業内容の整理・確認。					
5	因果関係論③ 近時の学説動向 予習：各自の参考書の該当ページ、配布プリント等の通読 復習：授業内容の整理・確認。					
6	不作為犯論① 総説 予習：各自の参考書の該当ページ、配布プリント等の通読 復習：授業内容の整理・確認。					
7	不作為犯論② 重要判例 予習：各自の参考書の該当ページ、配布プリント等の通読 復習：授業内容の整理・確認。					
8	不作為犯論③ 近時の学説動向 予習：各自の参考書の該当ページ、配布プリント等の通読 復習：授業内容の整理・確認。					
9	故意と錯誤① 総説 予習：各自の参考書の該当ページ、配布プリント等の通読 復習：授業内容の整理・確認。					
10	故意と錯誤② 重要判例 予習：各自の参考書の該当ページ、配布プリント等の通読 復習：授業内容の整理・確認。					
11	故意と錯誤③ 近時の学説動向 予習：各自の参考書の該当ページ、配布プリント等の通読 復習：授業内容の整理・確認。					
12	過失犯論① 総説 予習：各自の参考書の該当ページ、配布プリント等の通読 復習：授業内容の整理・確認。					
13	過失犯論② 重要判例 予習：各自の参考書の該当ページ、配布プリント等の通読 復習：授業内容の整理・確認。					
14	過失犯論③ 近時の学説動向 予習：各自の参考書の該当ページ、配布プリント等の通読 復習：授業内容の整理・確認。					
15	まとめ 予習：配布プリント等を再読する。授業ノートの確認。 復習：授業内容の整理・確認。					
評価方法	小テスト〔複数回実施〕の合計点で評価する。なお、併せて課題レポートの提出を求めることもある。					
評価基準	原則として、全15回の講義において、少なくとも12回以上の「出席」を単位認定の前提とする。 上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者には、その程度に応じて「S」または「A」を与える。授業内容についての理解度や表現内容に十分ではない点がある者は、その程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容についての理解自体が最低限度の水準に達していない者は、その程度に応じて「D」または「E」とする。小テストを一度も受験しなかった場合には、「F」とする。					
その他	配布資料、最新の六法を必ず持参すること。【受講上の注意】正当な理由のない、遅刻および途中退室後の再入室は認めない。私語、携帯電話の使用は禁止する。 その他授業を真摯に受けようとする意思の認められない学生については、退室を命じる場合がある。 ※G刈：法【選択必修(D)】 球【選択必修(D)】 情【選択必修(D)】 / EF刈：法【-】 球【-】 経【-】					